

富山地方鉄道鉄道線再構築検討会 第1回本線部会（議事録）

日 時 令和8年5月18日（月）16:55～17:25

場 所 富山県民会館 401号室

出席者 出席者名簿のとおり

1 開会

【事務局（田中交通政策局長）】

- ・ 引き続き本線部会を開催させていただきます。配布資料につきましては、検討会において資料2-1、2-2として配付説明済みですので、省略させていただきます。次第と出席者名簿、配席図のみとさせていただきます。以後の議事の進行については、設置要綱に基づき部会長の新田知事をお願いいたします。

【部会長（知事）】

- ・ 引き続きよろしく申し上げます。検討会では、本線についても、令和7年度の報告及び今後の取組みを説明しましたので、早速議事に入りたいと思います。

2 議事（1）今後の進め方について

【部会長（知事）】

- ・ 今後の検討を進めるにあたり、まずこちらについても専門委員のお二人から、留意すべきポイントについてご意見をいただければと思います。宇都宮専門委員申し上げます。

【宇都宮専門委員】

- ・ 先ほど来、利用者を増やしていく必要があるという話がありましたが、正直申しあげて、まだまだ本線の鉄道施設を見ても、これからしっかりと投資をして、より魅力的な鉄道にしていく必要があるのではないかと考えます。
- ・ これまで地鉄が自ら必死でやってこられたわけですが、限界があるということで、まさに投資をしていくことが必要だと思えます。それが本線全体に言えることだとまず申しあげておきたいと思えます。
- ・ 繰り返しになりますが、そうでないと、結局負のスパイラルに陥ってしまいます。使いにくい、使いたくない、それにより利用者が逃げていく、ますます事業としての収支が悪くなる、その結果さらにサービスが落ちる。これではいけないのですけれども、今回の再構築事業の活用により、富山地鉄のネットワークを維持していけば、その状況を変えることができると考えま

す。全線を対象として今後検討していく必要があるのではないかと思います。

- ・ もちろん、これまでの部会において、3パターンが出されているわけですから、これはしっかり精査をお願いします。
- ・ 昨年は民間コンサルが調査されたようですが、ぜひ鉄道会社の現場目線で、民間コンサルの意見を聞きながら精査を進めていただけたらと思います。私からは以上です。

【部会長（知事）】

- ・ ありがとうございます。それでは本田専門委員よろしくをお願いします。

【本田専門委員】

- ・ 私からは、一部の報道にございました、鉄道の社会便益の検討につきまして、少しコメントさせていただきます。
- ・ 一部のメディア報道にございましたように、黒部市の市民団体「鉄道を生かしたまち黒部」によりまして、今年の3月初めに、上市から宇奈月温泉間の社会便益の試算、年間120億円という数字でしたけれども、公表されました。改めて今回、私も記事あるいは関係資料などを見せていただきました。
- ・ この市民団体につきましては、黒部市内の地鉄線の安価な乗り放題きっぷなども販売しているということで、それこそ「参画」の取組みを長年にわたって実施してこられた交通まちづくりの市民団体になります。
- ・ 城端線・氷見線の再構築の際にも、鉄道沿線の市民団体の活動が、実は大きな力になったと思っているのですが、この団体も沿線の交通まちづくりにおきましては、大変意義のある活動を行っていると思っております。
- ・ 今回の社会便益の試算でございますが、地鉄鉄道線の存廃問題につきましては、単年度で取り組む行政や議会では目先の収支、あるいは財政負担が議論になってしまい、長期的な都市経営を支えるアプローチとしての鉄道の価値が十分に共有されないのではないかとという問題意識がありました。
- ・ そこで、これまでより、一步踏み込んで、地域の住民自らが単なる路線の収支を超えた、鉄道の多面的な価値について検討が行われ、国のマニュアルを指針にして、その価値を可視化しようとした点から言えば、大変有意義なものだと私は評価しています。
- ・ 市民生活の質の向上のためには、移動の選択肢が多いことが欠かせないのですが、持続可能な地域交通サービスが、単に市民の交通利便性の向上に寄与するというだけでなく、実は福祉とか医療、教育等の分野と密接に関係しており、持続可能な地域づくりを可能にするということを忘れてはいけません。
- ・ 先ほどの検討会でも、この社会便益の試算結果を取りあげるというご説明

がありました。私もこの鉄道の社会便益につきましては、今後、本線の方向性を出すにあたって、大変重要な視点の一つになるのではないかと思います。

- ・ この本線部会としても、しっかりと内容を確認した上で、今後の検討会での議論のベースとすべきではないかと考えております。
- ・ 本日は、県の地域交通政策監として、事務局席にいらっしゃいます中川先生は、この試算結果の発表につきまして、すでにコメントしておられます。
- ・ ぜひ今一度、専門家としての立場から、この試算結果を詳しく検証していただきまして、次回、内容の共有をいただけないかと勝手ながら思っているところでございます。簡単ですが、以上でございます。

【部会長（知事）】

- ・ ありがとうございます。それでは続いて沿線市町村の皆さんからご意見がありましたら、発言をお願いします。

【委員（滑川市長）】

- ・ 本線部会ということで、少し発言をさせていただければと思います。本線を考えるにあたって、一番の課題は、やはり滑川—魚津間の並行して路線が走っている区間だと私は認識をしております。
- ・ 鉄道網と言われる、鉄道は一応富山地方鉄道とあいの風とやま鉄道で全部つながってはいます。今、地鉄も滑川までは一応運行するという形でこれは決められたと思うのです。それで滑川まで一応つながったということで、ここから先がどうかということで色々な議論があって、パターン1から2-1、2-2という形でパターン化されたもので、それぞれ細分化した。こういったことも出ています。
- ・ 先ほど言った174名、そして今回の80名、この意見交換会の方々の意見、あとは、経済界など色んなところに通いながら、今色んな方の意見を拾っています。その中で、声なき声、先ほど言ったように、99%の方が意見交換会に出てきていない中で、声なき声をいかに拾うか、その一つの手法がアンケートで、意見交換会の中でもありました。1世帯あたり、お父さんとお母さん、そこに高校生がいれば、それぞれ思いも違ってくるので、そういった意味で、そこも、何か声を拾えるような仕組み、アンケートで、そこが拾える仕組みみたいなものを考えたいと思っています。その辺りを含めて、やはりこの並行区間というのは悩ましいところであります。
- ・ 声なき声を少し代弁させていただきますと、ここはやはり要らないのではないかという意見が滑川市民では多く聞かれています。
- ・ そういった意見も含めて、全体のネットワークを考えてほしいということをよく言われるのですが、滑川市民にとっては富山に行くにはあいの風と

やま鉄道があります。魚津に行くにもあいの風とやま鉄道があります。上市に行くときは上市までつなげていただいたので、上市も行けます。

- ・ 滑川市民だけのことを考えて、滑川市民の意見とすれば、それで鉄道網が成り立っているというのが、おおまかに99%全員とは言いませんけれども、それなりの方々が、そういう思いを今持っておられるので、そういった声がどこまで、その割合が全くわからないので、色々な方の意見を聞くと、そういった意見が多い状況なので、これ私が言っているわけじゃない。住民の方々の意見を集約すると、そういった意見が多いので、そのあたりをいかにまとめていって、皆さん言われる全体ネットワークを考えたときの最適解は何なのか、そのあたりを議論できれば良いと思っています。

【部会長（知事）】

- ・ ありがとうございます。今住民の皆さんのご意見を聞いていらっしゃるということですが、昨年地鉄から廃線届を出すことも考えているという表明がありました。それまで別にのんびりしていたわけでもないのですが、改めて富山地方鉄道の経営について、我々も思いを致すことになり、このような検討を加速化しているところでございます。
- ・ 一旦、令和8年度については、沿線でネットワークを維持するために、県、沿線自治体そして地鉄で収支をつなげるようにしようということで8年度に入っているわけでありまして、ただ、8年度までの対応しか決まっていないうわけでありまして、9年度以降どうなるのかということについてはこれからの話であります。あまり時間は残されていないということも皆さんご理解をいただいていると思います。
- ・ その他いかがでしょうか。

【委員（黒部市長）】

- ・ 水野市長から住民の意見ということもあつたわけですが、もちろんそれは大変大切なことだと思います。ただ、その場合に、住民の皆さんにお示ししているのは、例えば、区間ごとの収支などであります。
- ・ 収支や利用者数などを示しているわけですが、やはり皆さんに判断していただくためには、あるいは意見を求めるためには、しっかり、先ほど県の方からも言われた公共サービスの一環ですから、便益はどれだけあるんだといったものをしっかりお示しして、収支だけで議論が先行しないようご説明した上で、皆さんの意見を聞いていく必要があるだろうと思います。

【部会長（知事）】

- ・ ありがとうございます。それでは昨年度の分科会最終報告の場に、魚津市の村椿市長も出ておられましたので、あわせてご意見いただければと思い

ます。

【委員（魚津市長）】

- ・ 先ほど水野市長おっしゃったように住民の皆さんがどう考えているかという視点で、それぞれの地域の住民だけを考えると、やはりどうしても区間の損益ですとか利用者、そういった目線になります。
- ・ ただ、上坂市長がおっしゃるように、あるいは先生方がおっしゃるよう
に、公共交通鉄道の意義というものをどうやって住民の皆さんに、伝えていくかということが難しく、住民説明会をやっても、その部分をお伝えするのは、今の段階では少し難しい状況にあります。
- ・ したがいまして、ぜひ今後、検討会の方で、しっかりと住民の皆さんに伝えていけるような形の部分を作り上げていければと思っています。

【部会長（知事）】

- ・ ありがとうございます。藤井市長ご発言ありますか。

【委員（富山市長）】

- ・ 方向性としては上坂市長、村椿市長がおっしゃる方向性で私も良いと考えています。
- ・ 一方、水野市長のおっしゃる住民の意見、どうやって公的な、市民の予算を押さえていくかということをしっかり説明するという、やはり水野市長の姿勢も十分理解できると考えています。
- ・ ただ、前回までの本線分科会の資料等々読ませていただきますと、今日提出された3パターンというものを前提にお話をしていこうと決定されていますので、この本線部会においては、公共サービスの一環と、あるいはそれによってもたらされる社会的な便益というものをしっかりと県民の皆さんに伝えていくのが我々の仕事であろうかと思えますし、前提にあるのは県東部全体の公共交通ネットワークということです。
- ・ そして、その路線毎の特徴、観光地が終点にあったり、温泉地があったり、世界的にも経験しがたい体験ができる。住民は減りますけど、関係人口が増えていきますし、観光客なども十分呼び込んでいける。
- ・ 立山黒部貫光の見角社長さんも、多いに、この場にはいらっしやいませんけど、協力していただいていますし、我々はそういう視点を持って、魅力のある地域、県東部を作っていくのだ、富山県を作っていくのだという視点に立って、選ばれる地域づくりをやっていかないと。
- ・ 先ほど私も、ここいらっしやる首長さん皆そうだと思いますけど、知事も含めて、やっぱり人口減少が止まらないことには、関係人口を増やしていく、このことによって地域を活性化していく、今非常に大きな課題でありま

す。その大事な基軸としての今回の本線部会なり、3つの路線はあるのではないかと考えています。

- ・ 従って、これまでのまとめられた本線分科会の方向性を、これから先は少なくとも、しっかり継承しながら前向きに議論していくのが筋ではないかと感じております。

【部会長（知事）】

- ・ 藤井市長ありがとうございました。

【委員（滑川市長）】

- ・ この社会便益、年120億円便益があるというのは分かるのですが、やはりベネフィットだけではなくて、それにかかるコスト、B/Cですね。どれだけの便益にどれだけのコストがかかるのか。
- ・ 行政を経営する立場として、限られた予算の中で、こういった形で、沿線自治体すべてで、このベネフィットのためにコストをどこまでかけるのかという議論もこれから大事なところだと思っています。
- ・ 便益はもちろんわかっています。全線残せばいいのも、もちろん、頭の中では分かるのですが、やはりその税金を預かる身として、色々な医療、福祉、様々な社会課題の中で、公共交通が大事だということも分かりますし、社会的インフラに移行をしていくというのは分かりますが、便益に対するコスト、どこまでコストをかけられるか、色々な事業がありますので、それらを含めた形で今後協議していければなと思いますので、またご指導をよろしくお願いしたいと思います。

【部会長（知事）】

- ・ 水野市長ありがとうございました。先ほども、何度も住民の説明会を開催しておられるにも関わらず、なかなか関心を持ってもらえないということは他の首長さん方々をも代弁するような話だと思います。
- ・ 行政がやってきたこと、やっていること、あるいはやろうとしていることを、どう住民の皆さんに届けていくかということは、本当に我々にとって共通の課題だと思っています。そんな気持ちを代弁して言っていたのだと思います。
- ・ 今日たくさんカメラがおられますが、マスコミさんフルオープンでやっております。ぜひマスコミさんをお願いしたいのは、今日のことをぜひ正確に報道していただきたい。資料や議事録などは、県のホームページで可及的速やかに公開をすることにしておりますので、ぜひ、各地で住民の皆さんとのコミュニケーションをとられる際のツールとして、あるいは参考としていただきたいと思います。

- ・ 今後も県民の皆さん、市民の皆さん、住民の皆さんに正確に情報が伝わるように進めていきたいと考えております。
- ・ また、水野市長も、それから藤井市長も言及されました社会的便益については、先ほど本線の今後の進め方のところで、その社会的便益について、より専門的な知見を踏まえて精査するというところを、お認めいただきました。
- ・ 先ほど本田先生からも、記事が出たときにコメントされている、本県の中川地域交通政策監にぜひ精査をしていただけたらどうかというご提案をいただきました。
- ・ 今日中川地域政策監がおられるので、もし一言あればお願いします。

【事務局（中川地域交通政策監）】

- ・ 県の地域交通政策監で、富山大学の中川でございます。本日の議論で何度も出てきておりますけれども、こういった便益を計算するということが大変重要なことだと思います。さらに、それを住民の方・住民団体の方がされたということは大変貴重なことだと思いますし、それを行政の皆さんが着目しておられることも大変貴重なことだと思います。
- ・ 精査するよというお話でございました。私も交通社会資本整備に関しては研究テーマとしてまいりましたし、先ほどお話に出ました国土交通省の鉄道プロジェクト評価マニュアルの策定委員もしております。
- ・ そういった背景も踏まえまして、改めて、住民の方々が計算された資料を拝見させていただき、次回の部会で報告させていただこうと思います。よろしくをお願いします。

【部会長（知事）】

- ・ ありがとうございます。議長の権限として、中川政策監に発言を求めました。ご理解いただきたいと思います。

【宇都宮専門委員】

- ・ 先ほど、交通だけではなく、教育・福祉、色々な事業があるとおっしゃいましたが、本田先生から発言がありましたけど、実は、交通インフラをしっかりとすることが、福祉になるということもぜひお伝えいただきたいと感じております。
- ・ 例えば、年をとって車を運転できなくなっても移動ができることは大きな福祉になるわけです。また、自分の学校を自由に選べるということも教育的効果が大きい。つまり、交通対福祉、交通対教育ではなく、交通というのはそれらを支えるインフラであるということをご理解いただきたい。
- ・ ただ、なかなか便益というのは難しいです。例えば、教育の便益というの

は何だと思えますか。難しいですよ。今回精査していただきますけれども、便益とはどういったことかということは、よく考えないといけないということをつけ加えさせていただきたいと思えます。

【部会長（知事）】

- ・ 宇都宮先生ありがとうございます。これまでお聞きになって、中田社長、何かございましたらお願いします。

【委員（富山地方鉄道社長）】

- ・ これまで色んな数字が出ておりますし、パターンも色々ございます。その検証につきましては、私どもにはデータもノウハウもありますので、現場目線できちんとやらせていただきたいと思いますと思っております。

【部会長（知事）】

- ・ ありがとうございます。

【委員（舟橋村長）】

- ・ 事務局の方に確認したいことがいくつかありまして、この最終報告の資料2-2ですけど、これも住民の方から、私が受けた質問で、答えられなかった部分なので、ぜひ回答が欲しいなと思っているんですけど、この10年後におけるパターン別の営業収支をについて、なぜ10年後にされたのか。
- ・ もう1点。下にある「4 将来的な取り組みの内容」も、これが10年後の中に含まれていないということは、10年間ではこれは行わないが、しかし、その先には生じうるという認識の記載でよろしいのだと思うのですが、仮にこれが、何年後くらいにこれが発生しうるのかということも知りたいと思えます。次回の部会までで結構です。
- ・ この社会便益の報道、新聞で私も拝見しまして、この社会便益が120億円あるのは分かりました。それではなぜ収支がよくなるのかは、この社会便益と、もちろん収支が相関関係ではないと思うのですが、例えば、社会利益がどのくらいだったらどういう収支になるものなのかというのが疑問です。
- ・ 例えば社会便益が60億円の地方鉄道があったとしても、そこは収支がいいですよという話があるのであれば、すごく興味がある。議論を深める上で、少し知っておいてもいいと感じたので、もしそういった資料があれば次回まで結構ですので、そこが知りたいと思いました。
- ・ 今日議論を聞きながら、少し思ったことなのですが、この「鉄道」と、先ほど宇都宮先生も言われたのですが、交通と福祉、交通と教育の「交通」という言葉の定義が、「鉄道」と福祉、「鉄道」と教育と受けとめて

いいのか、交通は鉄道以外にも、数多の交通手段があると思うのですが。

- ・ ただ、その「交通」という言葉と「鉄道」という言葉が少し混在していて、受け止め方として、正しい受け止めができたのかという心配があるので、少し交通という大枠の議論でもいいのですが、これは交通全体の話です。これは鉄道に限った話ですということを、少し明確に議論をしていただいただけると、自分は理解が深まると感じたので、今後の議論の進め方で、注意していただけると嬉しいと思います。以上です。

【部会長（知事）】

- ・ 渡辺村長ありがとうございました。事務局で最初の10年後の収支に関するご質問に対して説明をお願いします。

【事務局（田中交通政策局長）】

- ・ 説明いたします。この本線分科会に県も参画しておりましたけど、議論の中で、この10年間にかかる費用と、将来的な取組みの内容、全部混ざった形ですと議論がされていきましたので、城端線・氷見線のケースでも再構築計画は10年間でした。また、全国でも概ね10年間で再構築計画に取り組みられている事例が多いので、議論の区分けを10年の部分と、それを越える部分に整理をしたとご理解をいただければと思います。
- ・ あと将来的な取組みの内容や、社会的便益の話がありましたけど、それにつきましては分かる範囲で次回ご説明をさせていただきたいと思います。以上です。

【部会長（知事）】

- ・ それではここまでお聞きになって、秋山部長からコメントがあればお願いします。

【オブザーバー（北陸信越運輸局鉄道部長）】

- ・ 同じ路線の中でありながら、それぞれの地域、自治体によって色々な立場、お考えがあるということがよく分かりました。
- ・ 利用者層の中でも、学生、高校生が非常に多いのではないかといいところですが、滑川市長がおっしゃっているような無関心層の方は、高校時代は鉄道を使っていたが、その後は自動車ばかりということになっているのではないかと思います。
- ・ 今回の議論、特にマスコミの方からしっかり報道していただいて、無関心層をいかに掘り起こすということが大事と感じました。我々もなんとか掘り起こしができるように、議論を進めていきたいと思っております。

【部会長（知事）】

- ・ 秋山部長、力強いお言葉をありがとうございます。その他いかがでしょうか。
- ・ 時間も経過しておりますが、ご意見も出尽くしたようですので、部会の結果について確認をしておきたいと思います。
- ・ 検討会資料2-1にありました、今後の取組みでご説明した通り、まず一つ目として、調査・検討の加速化を図るため、3月に示された本線分科会の最終報告について、鉄道事業者が現場目線で精査を行っていただくということが一つでございます。
- ・ もう一つが、赤字に目線が集まりやすい中で、幅広い鉄道の価値を示した鉄道の社会的便益について、議題として取りあげることとしたいと思います。先ほど、中川政策監からもコメントをもらったところでございます。そのような整理でよろしいでしょうか。
- ・ ありがとうございます。それでは先ほど、次の検討会を7月頃に開催としましたが、同じ顔ぶれになりますので、この本線部会も、検討会と同日に開催をさせていただくということで、調整をさせていただきます。
- ・ それでは、これで本日の議事を終了させていただきます。円滑な議事の進行にご協力いただきましてありがとうございました。

3 閉会

【事務局（田中交通政策局長）】

- ・ ありがとうございました。以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。

以上